

エレベーターが来ない

大松 達知

「エレベーターが来ない」という言い方が気になり出したら、あなたは歌人かもしれません。

「エレベーター」とは、四角い箱を上下させて人や物を乗せて運ぶ「仕組み全体」のことですね。正確に厳密に把握するならば、あのカゴというか密室というか、だけのことではありません。ただ、「エレベーターに乗る」という言い方は、カゴだけでない、その全容に身を委ねることを示すので気にはなりません。

開け^{ひら}けそこに過去の自分がいるようでエレベーターに吸われゆくなり
小島なお

この歌のエレベーターは、カゴだけでなく、縦長のほぼ空洞の構造物全体にしかたなく乗り込むイメージでしょう。実際には薄暗く細長い直方体をカゴが無言で上下するわけです。自分の過去が漂っている感じもします。

「JRに乗る」はどうでしょう。実際に自分の両足を乗せるのはJRのホームであり車両なのです。でもJRに乗

る、に違和感ありません。それは、人の口ぐるまに乗るか、儲け話に乗るとかいう感じの、物体ではないものに比喩的に乗っかる感じですね。しかし、JRとは、それ自体にはだれも触ることのできない組織体です。ですから、目の前にJRを差し出してみると言われてもだれもできません。JRとは、さまざまに姿を変える外星人（宇宙人）のような不可思議な存在なのかもしれません。

でも、「エレベーターが来ない」は変だと思っただけです。エレベーターの一部である、その扉を見ながら、エレベーターが来ないってなんだろう。「バスが来ない」なら、目の前にバスはありませんけども。JRが来ないなあ、って言いませんよね。だから、正確には「エレベーターのカゴが来ない」と言うべきだと思います。まあ、そう言ったら変人です。ですが、そのあたりのヘリクツを抑えた上で、知らんぷりをして使うのと、慣用に流されて無意識に使うのでは、物の味方が違うでしょう。（まあ、扇風機を回したり、お風呂を沸かしたりしますからね。）

エレベーターわが前へ昇り来るまでを深き縦穴の前に
待ちをり
田村元

これは、カゴだけをエレベーターと呼んでいます。と同時に奈落のような穴を意識しています。日常生活にある一寸先の闇を数メートル先に意識しながら、なにくわぬ顔で移動を待つ作者像が滑稽で怖いのです。